「若者の生活と文化に関する調査」にご協力いただいた皆様へ

調査ご協力へのお礼、調査結果の概要

松田　美佐　　（中央大学文学部教授）
辻　　泉　　（中央大学文学部教授）
浅野　智彦（東京学芸大学教育学部教授）

前略

昨年実施いたしました、「若者の生活と文化に関する調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、多くのみなさまにご回答を頂き、無事調査を行うことができました。あらためてお礼申し上げます。

ご協力いただきました調査の中から、特に重要な結果につきまして、ごく一部ではありますが、その概要をお知らせいたします。次ページ以降に掲載しておりますので、よろしければご一読下さい。

また、ささやかではありますが、調査にご協力いただきました謝礼（図書カード）を、同封させていただきましたので、お受け取りいただければと思います。

概要の内容、その他の分析結果などにつきまして、ご不明な点、お気づきの点などございましたら、以下のお問い合わせ先までお知らせいただけますと幸いです。それでは失礼いたします。

草々

●お問い合わせ先

〒192－0393　東京都八王子市東中野７４２－１
中央大学文学部　社会情報学専攻　　辻　泉
電話・ファックス：042－674－3793（直通）
E-mail：tsuji@tamacc.chuo-u.ac.jp

１．調査全体の概要

・調査名称：「若者の生活と文化に関する調査」
・調査主体：グローバル若者研究会（代表：松田美佐　中央大学教授）
・調査対象：東京都杉並区及び愛媛県松山市に在住する 20 歳の男女各 1000 名
・対象者の抽出方法：両地域とも有権者名簿を元に、層化二段無作為抽出法による。
・実施期間：2020 年 11 月 2 日～24 日（のち 12 月 7 日まで延長）。
・配布回収方法：郵送法（配布・回収とも）
・有効回答数（率）：東京都杉並区 265 名（26.5%）、愛媛県松山市 163 名（16.3%）。
※2015 年：東京都杉並区 259 名（25.9%）、愛媛県松山市 214 名（21.4%）
2009 年：東京都杉並区 308 名（30.8%）、愛媛県松山市 250 名（25.0%）
2005 年：東京都杉並区 266 名（26.6%）、愛媛県松山市 249 名（24.9%）

今回行った調査全体の概要は上記の通りです。調査地域の選定については、大都市と地方都市の比較という観点から、東京都杉並区（以下、“東京”）と愛媛県松山市（以下、“松山”）の 2 地域を対象としました。このうち、東京都内について杉並区を対象としたのは、平均的な住宅地であるということ、人口規模が松山市と近いということ、若者文化を対象とした先行の調査でも対象地になっているということ、などの理由からです。松山市は代表的な地方都市として対象にしました。なお松山市では他都市の大学に進学後も住民票を残しているケースなども多く、その分、無効票が多くなり、回収率がやや低かったです。

表１．主要属性①（性別・結婚・同居）

F1.1 性別		東京都杉並区(n=265)	愛媛県松山市(n=163)
1. 男性	度数	93	66
	地域 の %	35.10%	40.50%
2. 女性	度数	171	94
	地域 の %	64.50%	57.70%
3. その他	度数	0	1
	地域 の %	0.00%	0.60%
4. 答えない	度数	1	2
	地域 の %	0.40%	1.20%
F1.2 結婚		東京都杉並区(n=265)	愛媛県松山市(n=163)
1. 結婚していない	度数	255	153
	地域 の %	96.20%	93.90%
2. 結婚している	度数	7	10
	地域 の %	2.60%	6.10%
9. 無回答	度数	3	0
	地域 の %	1.10%	0.00%
F1.3 親との同居		東京都杉並区(n=265)	愛媛県松山市(n=163)
1. 同居している	度数	217	111
	地域 の %	81.90%	68.10%
2. 同居していない	度数	45	52
	地域 の %	17.00%	31.90%
9. 無回答	度数	3	0
	地域 の %	1.10%	0.00%

表２．主要属性②（学歴・職業）

F4 最終学歴		東京都杉並区(n=265)	愛媛県松山市(n=163)
1. 中学校	度数	0	3
	地域 の %	0.00%	1.80%
2. 高校	度数	18	18
	地域 の %	6.80%	11.00%
3. 専門・各種学校	度数	16	20
	地域 の %	6.00%	12.30%
4. 短大・高専	度数	3	14
	地域 の %	1.10%	8.60%
5. 大学・大学院	度数	227	107
	地域 の %	85.70%	65.60%
6. その他	度数	1	1
	地域 の %	0.40%	0.60%
F5.職業		東京都杉並区(n=265)	愛媛県松山市(n=163)
1. 学生	度数	233	137
	地域 の %	87.90%	84.00%
2. 常勤の会社員・公務員・団体職員	度数	12	14
	地域 の %	4.50%	8.60%
3. 契約社員・派遣社員・嘱託	度数	0	4
	地域 の %	0.00%	2.50%
4. パート・アルバイト	度数	6	6
	地域 の %	2.30%	3.70%
5. 専業主婦(主夫)	度数	1	1
	地域 の %	0.40%	0.60%
6. 無職	度数	7	1
	地域 の %	2.60%	0.60%
7. その他	度数	6	0
	地域 の %	2.30%	0.00%

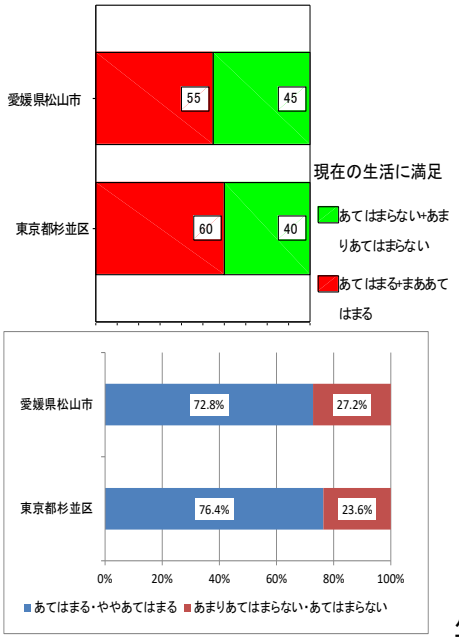
表３．主要属性③（暮らし向き・所得）

F13 実家の暮らし向き		東京都杉並区(n=265)	愛媛県松山市(n=163)
1. 上	度数	58	16
	地域 の %	21.90%	9.80%
2. 中の上	度数	155	96
	地域 の %	58.50%	58.90%
3. 中の下	度数	39	44
	地域 の %	14.70%	27.00%
4. 下	度数	11	7
	地域 の %	4.20%	4.30%
9. 無回答	度数	2	0
	地域 の %	0.80%	0.00%
F14 可処分所得(1ヶ月あたり)		東京都杉並区(n=265)	愛媛県松山市(n=163)
1. 10,000円以内	度数	32	31
	地域 の %	12.10%	19.00%
2. 10,001円～20,000円以内	度数	40	21
	地域 の %	15.10%	12.90%
3. 20,001円～30,000円以内	度数	47	43
	地域 の %	17.70%	26.40%
4. 30,001円～50,000円以内	度数	73	33
	地域 の %	27.50%	20.20%
5. 50,001円～70,000円以内	度数	35	20
	地域 の %	13.20%	12.30%
6. 70,001円～100,000円以内	度数	27	6
	地域 の %	10.20%	3.70%
7. 100,000円以上	度数	10	9
	地域 の %	3.80%	5.50%
9. 無回答	度数	1	0
	地域 の %	0.40%	0.00%

また、対象者を 20 歳の若者に限定したのは、第一に年齢による差をなくすことで、若者の中のタイプごとの対比を明確にさせるためであり、第二に若者として平均的な年齢であるという理由によります（現役で進学した大学生なら 2 年生、高卒で就職した場合には社会人 2 年目にあたります）。なお、各地域の回答者の主要な属性に関する傾向は表１～表３の通りです。表１にあるように、性別については、いずれの地域も、女性の割合がやや高かったです（東京：松山＝171 名 64.5％：94 名 57.7％）。

表２にあるように、学歴としては大学生が最も多く、その割合は東京のほうがやや多かったです（227 名 85.7％＞107 名 65.6％）。また多くを「学生」が占めました。表３を見ると、いずれも暮らし向きは「中の上」と答える割合が高く、一ヶ月間の可処分所得については、東京は「50000 円以内」、松山は「30000 円以内」の割合が高かったです。

２．分析結果①：生活の満足度～東京も松山も同じくらい高い満足度



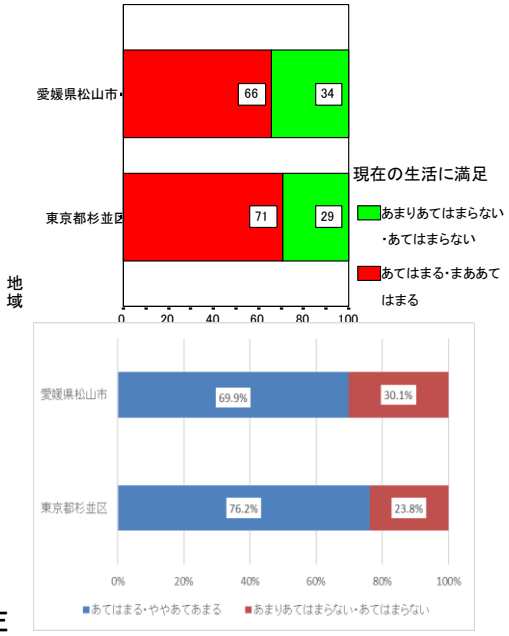


図１．生活満足度：左上、右上、左下、右下の順（以降も同様）に、2005（n=511）、2009（n=557）、2015（n=473）、2020（n=428）

東京と松山、それぞれの若者は現在のくらしにどのくらい満足しているのでしょうか。「Q46.1 現在の生活に満足している」という項目に、「あてはまる・ややあてはまる」と答えた方の割合は、前回同様に各地域７割かそれ以上に達し、地域差も見られませんでした[1]（図１）。同様に「Q48.5 今、住んでいるまちが好きだ」という項目に「あてはまる・ややあてはまる」と答えた方の割合も、各地域９割近くで地域差も見られませんでした。

[1] 以降も含め、地域差については無回答を除いて統計的検定を行っています。５％水準の有意差が見られたものに＊のマークを付記しました。

３．分析結果②：これまで東京の若者に多かった特徴

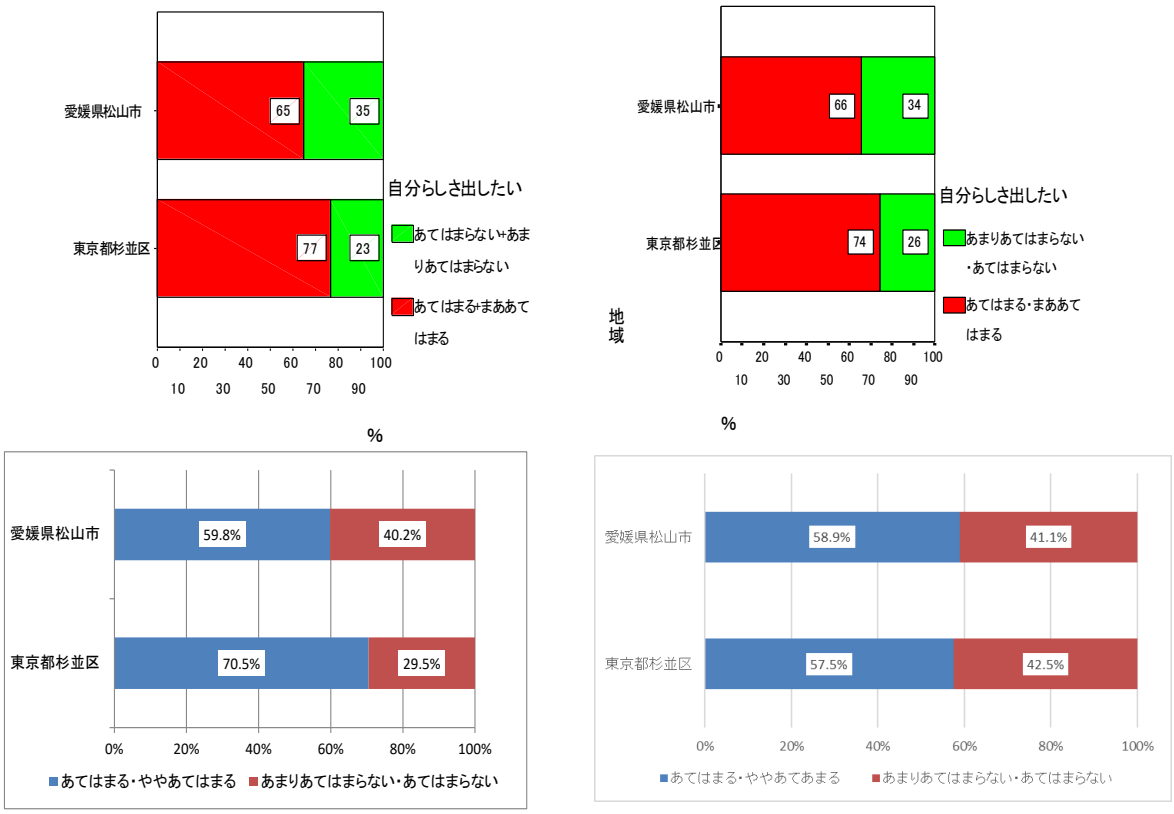


図２．差異化志向：2005（n=515）＊、2009（n=551）＊、2015（n=473）＊、2020（n=424）

これまでこの調査では、大都市と地方都市の若者文化の違いに着目し、東京の若者は「自信と個性のある大人派」と呼んできましたが、こうした違いは年々縮まってきたようです。例えば、図２にあるように、人と違った自分らしさを出したいという傾向（Q28.9）は、前回までは東京の方が多い傾向がありましたが、総じて両地域とも年々減少が続いた結果、有意差が見られなくなったようです。

これ以外にも、「Q28.1 自分はもう大人だ」という項目に「あてはまる・ややあてはまる」と答えたのは、各地域とも半分以下で、20 歳を対象にした調査としては意外な気もしましたが、東京 38.3%：松山 38.7%と、前回まで続いていた地域差が見られなくなりました。同様に、「Q31.4 一般に自分の感覚に自信がある」という項目に、「あてはまる・ややあてはまる」と答えたのも、東京 59.2%：松山 58.9%とこれまた前回まで続いていた地域差が見られなくなりました。

これと関連してか、2005 年と 2009 年の調査時には東京に多かった「オタク」についても、前回から地域差が見られなくなりましたが、今回も、東京 59.8%：松山 55.8%と地域差が見られませんでした。

４．分析結果③：これまで松山の若者に多かった特徴

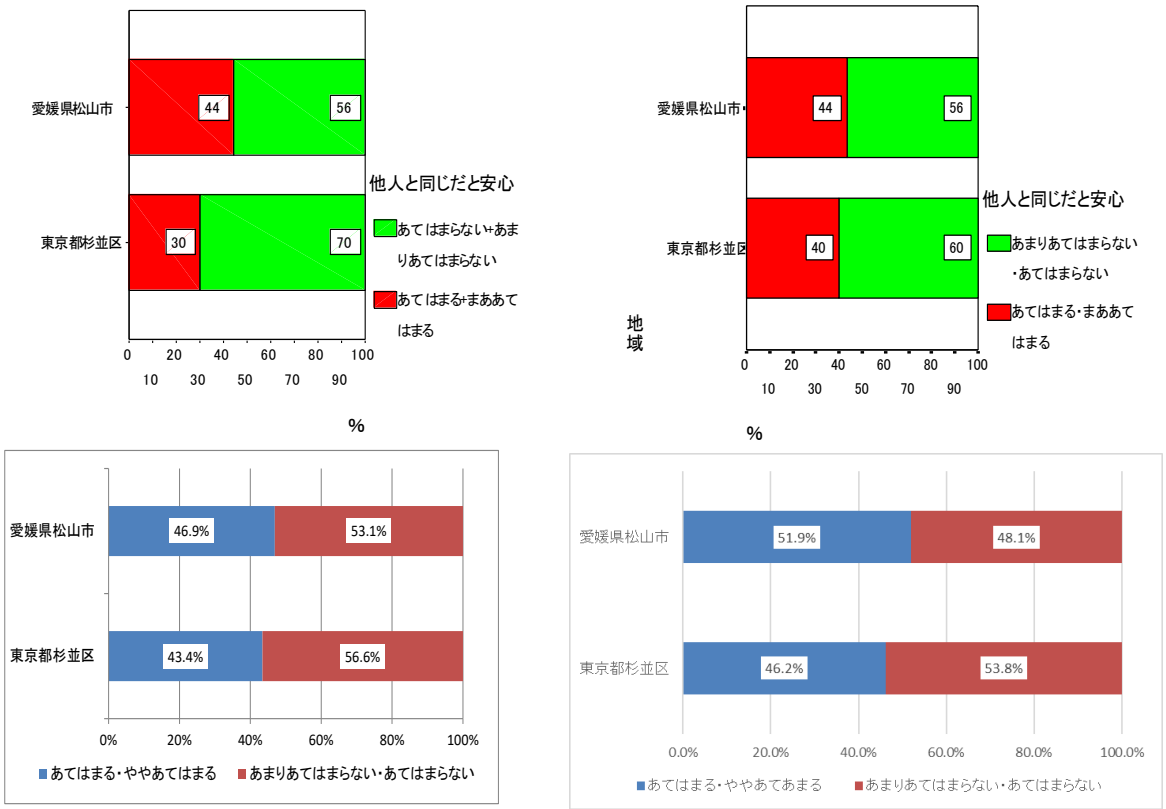


図３．同調志向：2005（n=515）＊、2009（n=552）、2015（n=473）、2020（n=426）

一方、これまでは地方都市の松山の若者を、「少し遠慮気味な純粋派」と呼んできましたが、それを特徴づける項目についても、過去に見られていた地域差がなくなってきました。「Q27.1「恋愛」と「結婚」は切り離せないと思う」という項目に、「あてはまる・ややあてはまる」と答えた方は、東京 56.8%：松山 63.2%と有意差は見られませんでした。

また「Q39.4.自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ」という項目に「あてはまる・まああてはまる」と答えた方は、2005 年では地域差が大きかったのですが、増加傾向が続くとともに、2009 年以降、その差は見られなくなりました（図３）。「空気を読む」という言葉もありますが、特に東京でのその増加傾向が目立ちます。

ほかに少し気になるのは、「日々の生活に確かな実感が欲しい」と感じている若者が、2005 年では松山のほうが多かったのが、2009 年以降統計的な有意差が見られなくなり、今回も、東京 63.8%：松山 67.5%と地域差が見られず、それなりに高い割合を示していたことです。先に図１で見たように、全般的な生活満足度は過去よりも増加していて、高い水準にあるのに、それでもそこはかとない満たされなさが日本中の若者を覆っている可能性があるのでしょうか。

５．分析結果④：好きなアーティスト

さらに文化的な行動を見ても、こうした地域差の減少がうかがえそうです。好きなアーティストのランキングを見ると（表４）、2009 年までは、東京は比較的個性的なアーティストが多くランクインし、松山は手堅くヒットメーカーがランクインしていましたが、2015 年はどちらも嵐が１位となりました。嵐は今回も東京で１位、松山で２位となっています。

表４－１．一番好きなアーティスト：上から 2005、2009、2015、2020

	東京都杉並区 (n=266)		愛媛県松山市 (n=249)
1位	Mr.children 6.0	1位	ORANGE RANGE 6.4
2位	aiko 3.4	2位	倖田來未 5.6
3位	BUMP OF CHICKEN 3.0	3位	ケツメイシ 4.8
4位	ゆず 2.6	3位	浜崎あゆみ 4.8
5位	ケツメイシ 2.3	5位	Mr.children 4.0
5位	スピッツ 2.3	6位	B'z 3.2
7位	B'z 1.9	7位	ゆず 2.4
7位	サザン・オールスターズ 1.9	8位	KAT-TUN 2.0
9位	JUDY AND MARY 1.5	8位	大塚愛 2.0
9位	ORANGE RANGE 1.5	10位	aiko 1.6
9位	レミオロメン 1.5	10位	BUMP OF CHICKEN 1.6
9位	安室奈美恵 1.5	10位	EXILE 1.6

	東京都杉並区 (n=308)		愛媛県松山市 (n=250)
1位	Mr.children 6.2	1位	EXILE 5.2
2位	ポルノグラフィティ 2.9	2位	RADWIMPS 4.4
3位	EXILE 2.6	3位	いきものがかり 3.2
3位	加藤ミリヤ 2.6	3位	GReeeeN 3.2
5位	aiko 2.3	5位	Mr.children 2.8
5位	RADWIMPS 2.3	5位	浜崎あゆみ 2.8
7位	嵐 1.9	7位	HY 2.4
8位	BUMP OF CHICKEN 1.6	7位	嵐 2.4
8位	ゆず 1.6	9位	ゆず 2.0
8位	椎名林檎 1.6	9位	加藤ミリヤ 2.0

	東京都杉並区 (n=259)		愛媛県松山市 (n=214)
1位	嵐 3.5	1位	嵐 5.6
2位	Mr.chirdren 2.3	2位	AAA 3.7
2位	ポルノグラフィティ 2.3	2位	back number 3.7
4位	AAA 1.9	4位	ONE OK ROCK 2.3
5位	EXILE 1.5	4位	SEKAI NO OWARI 2.3
5位	Perfume 1.5	4位	ゆず 2.3
5位	RADWIMPS 1.5	7位	AKB48 1.9
5位	久石譲 1.5	7位	GReeeeN 1.9
		7位	One Direction 1.9
		7位	UVERworld 1.9
		7位	ポルノグラフィティ 1.9

	東京都杉並区 (n=265)		愛媛県松山市 (n=163)
1位	嵐 4.2	1位	米津玄師 4.9
2位	BTS 3.4	2位	嵐 3.1
3位	ヨルシカ 2.6	3位	Snow Man 2.5
4位	LiSA 2.3	3位	SEKAI NO OWARI 2.5
4位	乃木坂46 2.3	3位	official髭男dism 2.5
6位	TWICE 1.9	3位	乃木坂46 2.5
6位	米津玄師 1.9	7位	日向坂46 1.8
8位	taylor swift 1.5	7位	NiziU 1.8
8位	Mrs. GREEN APPLE 1.5	7位	King Gnu 1.8
8位	back number 1.5	7位	King&Prince 1.8
		7位	BTS 1.8
		7位	TWICE 1.8

６．分析結果のまとめ

以上の結果から、大都市である東京においても、地方都市である松山においても、それぞれ若者たちは同じ程度の満足感を持って生活しているということが明らかになりました。この点について、各地域における特性を生かした生活の送り方を若者たちが身につけているからではないかと考えてきましたが、過去の調査で見られていた地域差が、かなりの項目で見られなくなってきたのも興味深い変化でした。特にインターネット関連の項目では地域差の見られない項目が目立ち、例えば、スマートフォンを日常的に使用する方の割合は東京 98.5%：松山 99.4%、LINE の利用率は東京 98.5%：松山 98.8%とほぼ 100%に近く、また SNS の利用率も東京 94.7%：松山 92.6%と、いずれも地域差が見られませんでした。この点は、地方都市が東京と同じようになったのか、東京が地方都市と同じようになったのか、今後も検討すべき課題だと思います。

こうした社会変化の中で、今後は自分にあった生活のスタイルを自覚的に選び取っていくことが重要ではないかと思います。今回の調査結果を元に、若者たちがより楽しい日常生活を送るためには何が必要か、そのようなことに役立つ研究を、より一層進めて行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

最後に、ご協力いただいた皆様が、今後ともご健康で、楽しい日々を過ごされますことを、お祈りいたします。ありがとうございました。

以上

●追記～対象者の抽出方法について

みなさまから、「選挙人名簿を元にした、層化 2 段無作為抽出法というくじ引きのような方法」という調査対象者の抽出方法についてのお尋ねをいただきました。以下、簡単にお答えさせていただきます。

まず選挙人名簿は、各自治体の選挙管理委員会で閲覧いたしました。ただし、学術目的であることを告げた上で事前に申請を行い、許可を得ました。

次に層化 2 段無作為抽出法ですが、これは、できる限り“意図的”にならないように、対象者の方を選び出す方法です。今回であれば、松山市・杉並区とも、それぞれ約 5000 人の 20 歳の方が居住しておられますので、それぞれ、そのうちの 5 人あたりに 1 人の方を“意図的”にならぬよう選び出し、最終的に 1000 人の対象者の方を選びました。

その際、効率的に行うために、例えば選挙区を 3 つあたりに 1 つづつ選び出すなどし、次に各選挙区に居住する 20 歳の方から、2 人に 1 人づつを選び出すよう、手順を 2 段階に分けました。選び出す場合も、“意図的”にならないように、「乱数表」を用いたり、等間隔に 2 人おきに選び出したりといった工夫をしました。

こうした層化 2 段無作為抽出法は、質問紙調査で多く用いられる方法ですが、なかなかみなさんにはなじみがない方法かと思います。また何か、ご不明な点などございましたら、どうぞご遠慮なくお尋ね下さい。ありがとうございました。

なお、本調査は中央大学特定課題研究費の助成を受けて行われた。